

日中科学技術 (ご連絡)

日中科学技術交流協会事務局

〒106

東京都港区六本木三の十六の二三

タウンコート六本木三〇七

電話 〇三(五八五) 八七一〇

日中科学技術交流は

全般・各部門で本格化

協会訪中団は主な学会(理・工・農・医)で構成

第八回常任理事会

協会は第八回常任理事会を一月二四日(水)午後四時から六時まで東京青山の日中経済協会会議室で開催、協会訪中団(一月二日から十一日、団長有山兼孝会長、団員小川智哉、相馬胤和、鈴木昭憲幹事、漆戸噺事務局長)の報告を受けた承するとともに四月に派遣する協会代表団訪中、その他の議題を審議した。出席者 有山兼孝会長、越智勇一、茅誠司、橋口隆吉、野上茂吉郎常任理事

井上春成監事

小川智哉、相馬胤和、鈴木昭憲幹事

村瀬武士参与、漆戸噺事務局長

議事

一、協会代表団訪中について

協会は日中科学技術交流が飛躍的に発展する年にあたり、昨年九月、中国科学院から招請を受けた代表団を四月二八日(土)から約二週間派遣する。

団の構成は、わが国の理学・工学・農学・医(薬)学における主な学会の代表的な人により、今回の訪中でこの部門の交流を本格的に進めることを目的とする。

人選については、常任理事会が責任を持ち必要な部門については理事と相談する。

二、今年の交流について

協会訪中団が中国科学院、中国科学技術協会、中国国家科学技術委員会・衛生部、中国農学会、中華医学会、中国宇宙航空学会・燕山公司、ハルビン造船大学及中日友好協会、

中国国際旅行社と打合せて来た次の諸課題については、全般的なものは全体で、理、工、農、医についてはそれぞれ分担して行う。

協会訪中団打合せ事項()は打合せ先

全般

- (一) 協会代表団訪中(中国科学院)
- (二) 日本で開催される国際会議、学会、シンポジウムに中国からの参加について(中国科学院)
- (三) 中国科学普及事業総合視察団訪日(現代的科学技術センター設立)(中国科学院)
- (四) 中国科学院技術委員会、中国科学技術協会
- (五) 日本の科学・技術者が旅行社の受入れで中国科学技術関係訪問旅行をすることについて(中国国際旅行社)
- (六) 科学技術交流の通訳養成のために日本から研修生を中国に派遣する件(中国科学院、中日友好協会)
- (七) 周培源中国科学院副院長、秦力生中国科学院副秘書長、任新民中国宇宙航空学会理事長の来日講演集の発行(中国科学院、中国宇宙航空学会)
- (八) 中国代表団、視察団、研修生のための日本視察旅行案内の作成(中国科学院、中日友好協会、中国国際旅行社)

理 学

- (一) 共同研究 天文学・固体物理学・宇宙線研究・核融合プラズマ研究・引力波研究・地震予知研究 (中国科学院)
- (二) 赤外線検知、半導体レーザー、半導体マイクロ波素子の日本科学・技術者の紹介と訪中講演 (中国電子学会)

工 学

- (一) 中国宇宙技術視察団訪日 (中国宇宙航空学会・燕山公司)
 - (二) 人工衛星制御に関する共同研究と技術協力 (中国宇宙航空学会)
 - (三) コンピューター設計の視察と相互研究発表 (中国科学院計算技術研究所)
 - (四) 滋性関係の日本科学・技術者の訪中講演 (中国宇宙航空学会)
 - (五) ハルビン造船大学教育視察団訪日 (ハルビン造船大学)
- 農 学
- (一) 中国科学院農薬科学代表団訪日と日本農薬科学代表団(仮称)訪中 ― 農業現代化総合科学試験基地(中国湖南省桃源県)建設― (中国科学院)
 - (二) 草原・亜熱帯森林生態学の科学研究者

の訪日、訪中 (中国科学院植物研究所)

- (一) 生化学研究試薬の交流 (中国科学院植物研究所)
- (二) 食菌類商品生産技術視察団訪日 (中国国家科学技術委員会・中国合作総社)
- (三) 日本農業関係学術団体と刊行物の交換 (中国農学会)

医 学

- (一) 中国全国針灸針麻學術討論会に日本から科学研究者、十三名を招待 (中華医学会、衛生部)
- (二) 武見太郎日本医師会会長の訪中招待 (中華医学会)
- (三) 医学者の訪日、訪中、相互講演と共同研究 (中華医学会)
- (四) 中国針灸原理代表団訪日 (中国国家科学技術委員会、衛生部)
- (五) 中国人工心臓視察団訪日 (中国国家科学技術委員会、衛生部)
- (六) 中国老人病・老人医学代表団訪日 (中国国家科学技術委員会、衛生部)
- (七) 新抗生物質研修生の日本派遣 (中国国家科学技術委員会、衛生部)

報 告

一、会計報告

一九七八年四月一日から十二月三十一日までの会計報告を受けた。

二、会員と賛助会員

一月二十日現在、会員三八一名、賛助会員八二社の報告を受けた。

有山会長

鄧小平副総理、方毅副総理一行を見送る

鄧小平副総理は方毅副総理とともに米國訪問を終え帰國の途中、二月六日から八日までわが國を訪ずれ、大平首相、福田前首相はじめ政府首脳と会談、これにより日中のきびなはさらに強まった。

有山会長は鄧副総理、方副総理一行が二月八日朝帰國するにさいし羽田空港で見送った。

計 報

会員 神山貞二氏 (鉾山地質学・國際資源株式会社顧問) は一月二四日すい頭癌のため逝去された。
神山貞二氏は生前、東京地学協会と中国との交流に大変な熱意で尽力された。

享年六八才

協会訪中団、方毅副総理と会見



方毅副総理は一月九日(火)午前十時から十一時四十分まで人民大会堂で協会訪中団团长有山会長、四名の団員全員と親しく会見した。

会見には中国科学院から周培源副院长、郝汀外事局长、崔泰山外事局責任者、余谷風外事局アジア・アフリカ処長らが同席した。

会談は方毅副総理が訪中団に歓迎の言葉を述べ、有山会長が中国訪問中歓待を受けたことについて感謝の意を表しさらに日中科学技術交流協会設立までの経過を説明した後、次のことについて行われた。

- 一、共同研究について
 - 二、科学技術と資源の相互補完
 - 三、日中科学技術交流における語学の問題と漢字簡略化やエスヘラントの問題点
 - 四、日本で開催される国際会議・学会・シンポジウムへの参加
 - 五、日中科学技術交流の政府、民間の関係
 - 六、プラント導入に関する技術の問題
 - 七、茅構想による日中学位センター
 - 八、日中科学技術交流協会代表団訪中
- また方毅副総理は昨年十月、鄧小平副総理が日本を訪問した時、九月、周培源副院长を团长とする中国科学院代表团が日本を訪問した時に受けた日本でのあたたかい歓迎に対して中国人民が心から感謝していることを表明した。

協会訪中団と中国関係部門の

会談・会見名簿

國務院・方毅副總理

中国科学院・周培源副院長、嚴濟慈副院長

郝汀外事局長、崔泰山外事局責任

者、過興先一局責任者、章洪琛二

局責任者、石山農業支援弁公室主

任、方均外事局国際会議責任者、

余谷風外事局アジアフリカ処長

姚佩君、丁学泉幹部、李満園二局

幹部、徐和平、王曉鳴外事局職員

故郭沫若院長・于立群夫人、王廷芳秘書

中国国家科学技術委員会・江明副主任、嚴

宏謀外事局責任者、倪信興外事局

処責任者、田兵外事局幹部

中国科学院技術協会・裴麗生副主席、王政、

呂若羿国際部責任者、田兵幹部、

金若宣、王瑞蘭、寧輝鄂職員

中国農学会・楊頭東理事長、徐静理事、劉

志仁秘書

中華医学会・錢信忠会長、陳致明副会長、

屠宝忠副秘書長、程克如衛生部外

事局副局長、董玉昌責任者、孟慶

之幹部、顔平安、周心寬職員

中日友好協会・孫平化副会長、殷蓮玉幹部

中国国際旅行社・張雨副社長、陳蕙娟幹部

中国科学院物理研究所・施如為所長

中国科学院冶金研究所・郭慕孫副所長

中国科学院半導研究所・林蘭英副所長

中国科学院計算技術研究所・高慶獅副研究

員

中国科学院動物研究所・張致一副所長、吳

政安研究者

中国科学院植物研究所・湯佩松副所長

中国宇宙航空学会・王道力常務理事、謝光

選中国宇宙技術研究院副院長、唐

津安長城工業公司副總經理、付炳

辰、譚麗英中国宇宙航空学会職員

燕山公司・栗有山顧問、上官世鼎、陸毅技

術發展部エンジニア、王勉対外連

絡責任者、朴榮植職員

ハルビン造船大学・王松如学長、陳寬助教

授、魏榮年講師、宋毅英外事弁公

室責任者、趙彬儒中国船舶工業公

司職員

その他協会訪中国は、周總理記念展、北京

大学、鋼鉄学院、中国電子学会、中国金属学

会を訪問した。

また訪中団は日本大使館に伴正一公使を訪

ね日中科学技術交流について懇談した。

中国科学院、中華医学会、中国宇宙航空学

会、ハルビン造船大学は協会訪中団にそれぞ

れ心のこもった歓迎宴を開催した。

協会訪中団は帰国にさいし感謝の意をこめ

て答礼宴を行った。答礼宴には周培源中国科

学院副院長、施如為物理研究所長、裴麗生中

国科学技術協会副主席、中国国家科学技術委

員会、中国農学会、中華医学会、中日友好協

会、中国国際旅行社、中国科学院半導体研究

所、計算技術研究所、動物研究所、植物研究

所、中国宇宙航空学会、中国電子学会、中国

金属学会、ハルビン造船大学、鋼鉄学院の責

任者と王廷芳先生が出席された。

日本大使館からは伴正一公使が参加された

協会訪中団到着と帰国のさい北京空港で中国

科学院周培源副院長、郭慕孫化工冶金研究所

副所長、郝汀外事局長、崔泰山外事局責任者

王廷芳氏らの手厚い出迎えと見送りを受けた。

また二月二十日來日するハルビン造船大学

王松如学長一行も訪中団を見送った。

日本学士院百年記念行事参加て

中国科学院代表団が來日

日本学士院は百周年を迎えたが、これを記

念する行事に世界各国関係科学アカデミーを

招待した。

中国科学院はこの招待を受け、一月十五日

から二六日まで、陳宗基中国科学院地球物理

研究所責任者、郝汀外事局長、姚佩君外事局

幹部からなる代表団を派遣した。

また中国社会科学学院からも胡喬木院長を团长とし谷羽夫人(中国科学院計画局長)、唐月梅外国文学研究所員、朱佳木秘書を団員とする代表团も来日した。

天皇陛下は一月十八日各国の代表と会見したが、これに胡喬木、陳宗基の両氏が出席した。

日中文化交流協会と当協会は共同で一月二二日、中国社会科学学院、中国科学院代表団の歓迎宴を開催した。歓迎宴には茅誠司日中協会代表世話人・協会常任理事、和達清夫日文学士院長・協会常任理事、伏見康治日文学術会議会長・協会会員、増田四郎日文学術振興会議や著名な自然科学、人文社会科学の方々や出版、報道関係者が出席した。また政府からも文部省、通産省工業技術院、科学技術庁外務省から責任者が出席した。歓迎会では宮川日中文化交流協会副理事長が挨拶をし、有山会長が乾杯の音頭をとった。

胡喬木院長は中国社会科学学院、中国科学院代表团を代表し謝辞を述べた。

中国科学院代表团は日本学士院記念行事に参加したのち科学技術庁、通産省工業技術院、日本学術会議、日本学術振興会、東京大学、京都大学、名古屋大学、及研究施設、科学機器製造工場、日中友好協会全国本部、日中文化交流協会、日中経済協会、日本国際貿易促

進協会、当協会を訪問した。

中国社会科学学院、中国科学院代表团は帰国にさいし二五日夜、盛大な答礼宴を行い、新たな友情をたづさえ帰国した。

中国全国針灸針麻学術討論会へ

日本代表团・十三名が参加

中国全国針灸針麻学術討論会は既報の通り今年の六月一日から五日まで北京市で開催されるがこの度の会議に日本から参加する科学者、医学者十三名が決まった。

日本代表团は五月三十日に出発し、討論会に参加すると共に討論会終了後、中国及世界から参加した科学者、医学者とともに三方面にわかれ約一週間中国各地を訪問し帰国する

日本代表团名簿

相川 貞男・北里大学教授、精神医学研究所室長

池園悦太郎・東京医科歯科大学教授

市岡 正道

神山 守人・杏林大学教授

木下 晴都・日本針灸師会会長

下地 恒毅・新潟大学教授

芹沢 勝助・筑波大学教授

高木健太郎・名古屋市立大学長、日本針灸

医学会長

武重 千冬・昭和大学教授

橋 直矢・東京大学医学部附属分科長

永山 薫造・京都疼痛研究所長

兵頭 正義・大阪医科大学教授

山村 秀夫・東京大学医学部長、日本針灸

治療学会長

銭信忠中華医学会長・

衛生部副部長来日

銭信忠中華医学会長は一月、団を卒い厚生省と日本赤十字社の招待を受け来日した。

銭会長は厚生省、日本赤十字社との友好関係を促進するとともに武見太郎日本医師会会長、熊谷洋日本医学会長や多くの医学関係者と会談しまた日本の主な都市と病院、医療機械製造工場を参観し二月三日帰国した。

日本学術振興会代表团が訪中

日本学術振興会は中国科学院の招きで一月十五日天城勲理事長团长、杉二郎常務理事・協会常任理事副团长の代表团を派遣した。

方毅副総理は一月十九日代表团と会見し、日本学術振興会第一回代表团に歓迎の意を述べ今後より協力し合って日中学术交流を進展させることなどについて話合った。

田村三郎協会常任理事が代表団員で訪中した。

お知らせ

一、入会金・会費の振込と領収書

会員、賛助会員各位の入会金・会費の納入はなるべく銀行、郵便振込にてお願い申し上げます。

なお、お振込いただいた場合は振込控をもって領収書にさせて下さるようお願いしております。協会領収書が必要のさいはすぐお送りしますのでその際はまことに恐縮に存じますがご連絡お願い申し上げます。

二、講演集発行

昨年協会が招いた中国科学院代表団の周培源副院長、秦力生副秘書長と中国宇宙航空学会参観団の任新民理事長の講演集をお送りします。なお多少在庫がありますのでさらに御必要の方には次の頒布価格でおわけします。会員五百円、非会員七百円。

三、来日中国代表団・視察団・研修生用中国語版日本旅行案内

この旅行案内は科学技術庁、経済企画庁平凡社、日本交通公社等から資料の協力をいただき中国から来日する人達がむだなく日本視察旅行をするため作るものです。そのためこの日本視察旅行案内を利用する中国関係方面の方々の要望も聞き、四

月一日発行を目標に準備しております。

四、中国全国針灸針麻学術討論会に自費による参加の件

協会は中華医学会に自費による希望者も参加出来るよう問合せでしたが、この度の協会訪中団が中華医学会と会談した結果、受入条件(宿舎、会議参加者数)で今回は不可能である。しかしこのような要望を受けて来年、中国針灸針麻日本学術視察団訪中の実現についてお互いに研究することになりました。

五、中国国際旅行社との打合について

協会訪中団は一月八日午前十時半から中国国際旅行社を訪問し張雨副社長、陳蕙娟女史と会談しました。

協会から科学・技術者が科学技術に関する視察を主たる目的にし旅行社ベースで中国を訪問したい場合どうか、また人数についても二三人のグループもあるしまた十人、十五人、それ以上のグループもある場合や植物、昆虫、魚類など採集はどうかとの問合せに対し、中国国際旅行社からは次の回答がありました。

日中科学技術交流協会が成立して両国の科学技術交流はますます活発になる。中国は今四つの現代化にとりこんでおり、これは中国国際旅行社としても重要な仕事である。その

ため、中国国際旅行社は日中科学技術交流協会の斡旋で旅行社ベースで日本の科学技術方面の方々が中国に来られるのを歓迎する。

人数は少人数でもよいし多人数でもよい日本の科学者が一人で中国の静かな避暑地に静養や原稿を書きにこられてもよい。ただまだサービスが不足しているので一人の場合はその事情によって通訳を考える。値段は総合サービスといって宿、食、交、通訳を含み十人以下、十人以上、また、一人部屋、二人部屋によって違って来る。それに移動の飛行機、自動車がかかる。植物等の採取は中国科学院と相談して研究する。

我々中国国際旅行社は貴協会に出来るかぎりの協力をしたいと思うので協会から要求があればいつでも手紙を出してほしい。手紙は直接でもよいし、日本の旅行社を通じてもよい。

とのことでした。会員各位からこのような内容に準ずるご要望がありましたらどうぞ事務局にご相談下さい。

六、題字「ご連絡」は今号から「日中科学技術(ご連絡)」にいたしました。